

# ライティングセンターを核とした学習成果の可視化

西浦真喜子・小林至道・毛利美穂（関西大学教育推進部）

nisiura@kansai-u.ac.jp

本発表の概要：大学間連携共同教育推進事業〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援のなかで、ライティングセンターを中心に、関西大学が行っている「学習成果を可視化する仕組み」を紹介する

## 1. 平成24年度文部科学省採択 大学間連携共同教育推進事業（連携校：津田塾大学）

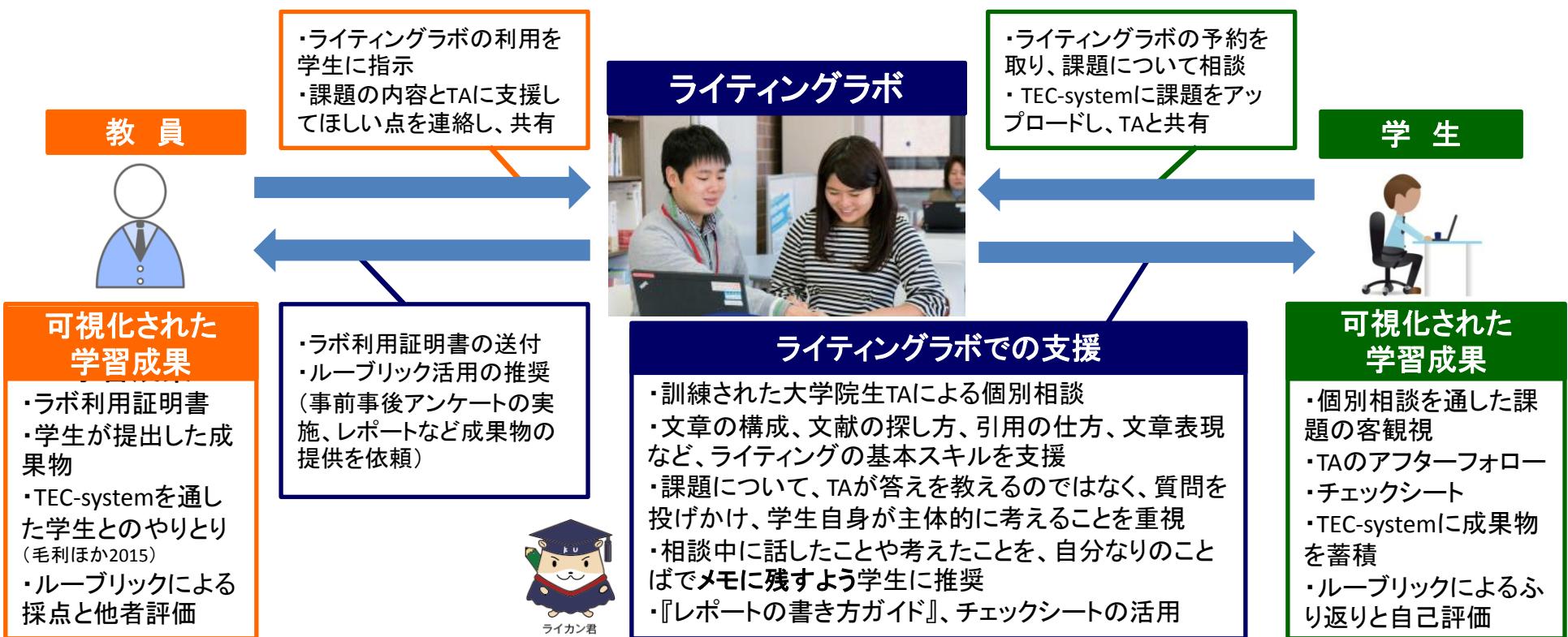
【本連携事業：〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援の5つの柱】

- ①ライティングセンターを中心とした支援体制の再構築：ライティングラボ（関西大学）の運営体制の充実化
- ②eポートフォリオシステムの開発：ライティング／キャリア支援のための多様な機能を備えたTEC-systemの開発
- ③評価指標の開発：ライティング、自己評価、〈考え、表現し、発信する力〉のルーブリック開発と活用
- ④カリキュラムとの連携：教員によるライティングラボの利用指示、授業における出張講座（例 ラボ利用ガイダンスなど）
- ⑤社会との連携：高大連携、社会連携の推進（例 大学生向け講演会、高校生向け講座、作文コンテストの企画・開催）



本連携事業の目的（1）主体的学びの確立による大学教育の質的転換  
 （2）主体的に考えると同時にコミュニケーションを形成・深化しうる人材の育成  
 ⇒ライティングラボを中心に学生の「学習成果を可視化する仕組み」を整備する

## 2. ライティングラボを核とした学習成果を可視化する仕組み



⇒学習過程を可視化することで学生の主体的学びを促進し、学習成果をより充実したものにすることを旨とする

## 3. ライティングラボが開発した学習成果を可視化する支援ツール

支援ツール	可視化の流れ	内容の詳細
レポートの書き方ガイド	教員⇔ラボ⇔学生	レポートの書き方についての要点を30～40ページ程度でまとめたA5版の冊子。ライティングにかんする学習成果を可視化するうえでの基本テキストとして、ラボでの個別相談や授業で活用されている
チェックシート	ラボ⇒学生	レポートの書き方について、どのように書き進めれば良いかを段階的に示したもの。学生が、「何ができていて何ができていないか」、また、「今後何をしたら良いか」を確認できる
アフターフォローメール	ラボ⇒学生	ラボでの相談後に、TEC-systemを通して、TAが学生にアフターフォローのコメントを送信。コメントには、ラボでの相談の「おさらい」を書くTAが多く、学生にとって相談内容や課題を進めるポイントを思い出す手がかりとなる
ラボ利用証明書	ラボ⇒教員	ラボでの相談日時やTAが支援した点など、学生の相談時の状況について記載したもの。教員は、利用指示を出した学生が、「ラボでどのような支援を受けたか」を確認できる
TEC-system	ラボ⇔学生⇔教員	個人学習、授業科目、課外活動など、大学における学生の多様な学習活動を可視化したeポートフォリオシステム。ラボで相談した文書ならびに授業の成果物が蓄積され、学生はシステム上でルーブリックによるふり返りと自己評価を行うことができる
ルーブリック	ラボ⇔教員⇔学生	学生の学習成果を可視化することができる評価ツール。学習目標を、観点、尺度、評価語で明確化し、教員および学生自身がルーブリックを用いて課題を評価することで、目標をどの程度達成できたか確認できる

⇒カリキュラムとライティングラボの有機的な連携を目指し、現在、支援ツールの効果検証を進めている